

C-45 山形市における学齡期中期男女児の皮膚色調の季節変化について
東京家政大家政 木曾山かね 山形大教育 ○小関きみ

目的 本研究は皮膚の色調と衣服の色を考へるための、系統的な基礎資料を得る目的をもった基礎実験研究である。学童の色調については、東京、岡山地区の色調について報告したが、それらとも比較考察検討したい。

方法 測定は視感測定法で行なつた。測定時期は春期は1975年4月下旬、室温14℃湿度78%、夏期1975年6月下旬、室温26℃湿度57%、秋期は1974年10月中旬、室温13℃湿度77%、冬期は1975年1月下旬、室温18℃湿度71%、皮膚面の照度は450 Lux内外にて測定した。被験者の皮膚は、健康な皮膚を集計の対象とした。被験者は山形市立山形第8小学校学童3・4年男女118名で、8才79.7%、9才20.3%である。被験者の着衣状況は、衿明は原型位、袖丈は夏期は半袖、他の季節は長袖を着用した。家庭の職業は会社員53.4%、公務員18.6%、商業18.6%、その他9%と農業0.84%である。

結果 学童の色調は、5.0 YRと7.5 YRに亘つていて、胸背部や上腕内側においては明度の高い彩度の低い色調が多くみえ、顔部や前腕外側では、低明度で比較的高彩度の $\frac{5}{4}$ の色調が多いが、青年女子にあまりみられない $\frac{4}{4}$ $\frac{5}{4}$ などの日焼けしたような色黒の色調が、夏以外の季節にも30%近くもみえている。岡山地区や東京地区学童と、全体に似かよつた傾向を示しているが、二地区より明度の一層低いこれらの色調が多くみられることが、本報告の一つの傾向のようにみうけられた。